

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 大悲会
事業所名	特別養護老人ホーム あそか苑
事業所の所在地	〒078-0347 上川郡比布町東町2丁目5番2号
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0173100116

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ウ）口腔機能と食事のケア
開催日時
令和5年7月10日（月曜日）14時00分から15時15分
開催場所
特別養護老人ホームあそか苑（デイ・サービスセンター「マイトリー」）
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
社会福祉士1名、介護職員9名（介護福祉士4名）、看護師1名、栄養士1名、 介護支援専門員2名、理事長1名、事務長1名、管理者1名、事務員1名 計18名
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） 「口腔機能低下に伴うリスクと正しい食事方法」 （1）講義 「噛むことの大切さ」 14:00～14:30 （2）講義・演習 「口腔ケアの必要性について」 14:30～15:15 （3）質疑応答
2 講師・指導者の所属職氏名 （1）北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学科 クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野教授 歯学博士 越智守生 氏 （2）札幌市立大学看護学部 老年看護学 准教授 歯学博士 松村真澄 氏

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
口腔ケアや噛むことの大切さの認識不足から、誤嚥や肺炎等の感染症が発生している。

<p>研修のテーマ及びねらい</p>
<p>口腔ケアの大切さ、嚥むことの機会や口腔体操（発声等）を通し、嚥下機能の向上や維持を図る。</p> <p>併せて、歯磨き方法の演習を通し、口腔内の衛生保持を図ることで、肺炎等の感染症の予防強化をねらいとする。</p>
<p>研修成果等</p>
<p>1 実施前の課題解決の有無等</p> <p>口腔ケアの大切さを認識し、肺炎等の感染症が軽減でき、目的を果たすことができた。</p> <p>2 実施による成果及び効果</p> <p>口腔ケアや嚥むことの大切に関する知識を職員が習得でき、食後の口腔ケアの充実が図れ肺炎等の感染症のリスクが減少した。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>共有した意識を継続、習慣化できるか不安があり、研修会の定期開催を検討する。</p>
<p>4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み</p>
<p>口腔ケアを感染症対策全般の中のひとつとすることなく、関連する項目を細分化し、特に研修に演習を取り入れ、具体的に取り組めるよう内容を検討する。</p>
<p>5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること</p>
<p>研修を企画するにあたり、講師の先生方と具体的に取り組める、実践できる内容となるよう工夫している。（意外と専門的になり難しくなることがある）</p>
<p>6 研修実施に係るまとめ、感想等</p>
<p>コロナウイルス感染で集合研修が出来ない期間があり、忘れていたことの再発見や口腔ケアの重要性を再認識でき大変良かった。</p>

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人 ふれんど
事業所名	特別養護老人ホーム彩
事業所の所在地	〒053-0022 苫小牧市表町5丁目11番5号
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0173602251

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ケ）から選択。（ケ）の場合は具体的な内容を記載。）
（ケ）介護従事者ができる薬剤管理（薬の作用・副作用・飲み合わせなど）
開催日時
令和5年10月25日（水）・令和6年1月24日（水） 感染症対策のため分散開催
開催場所
ふれんどⅡ高齢者複合施設・ふれんどⅢ高齢者複合施設
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
全体人数31名 看護職員7名、介護支援専門員3名、生活相談員2名、介護職員19名 参加事業職種別 特別養護老人ホーム、特定施設入居者生活介護、介護医療院、通所介護
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） 「薬のイロハ～薬の基本的な知識を学ぶ～」 1. 基本的な薬の作用・副作用について 2. 高齢者がよく服用する薬について～睡眠導入剤・抗炎症薬・抗精神病薬を中心に～ 3. 薬の飲み合わせについて 4. 薬の飲み忘れや飲むこと出来ない場合の対応について
2 講師・指導者の所属職氏名 講師：管理薬剤師 足立 貴司 氏

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
高齢者の多くは多剤服用しており、80歳の高齢者の腎機能は30歳のほぼ半分と言われており、薬物が体内から消失されにくくなるとされている。（引用文献：伊藤澄信. 薬剤副作用の早期発見・早期発見のポイント 高齢者に起こりやすい薬剤の副作用と発見のポイント）

一方、加齢に伴う薬力学的変化では中枢神経系作動薬の感受性が亢進することや血管平滑筋のカテコールアミン受容体数の減少、生理学的なホメオスタシスが変化することが報告されている。こういった生理機能の変化により高齢者では副作用が発現しやすく、また重篤になりやすいと考えられている。（引用文献：三浦久幸ら. 後期高齢者 日常診療からターミナルケアまで治療薬と問題点 高齢者薬物治療の注意点）当法人施設の入居者も多くの方が多剤服用していることが現状であり、介護職員が基本的な薬の作用・副作用の知識が不足していることが課題である。

研修のテーマ及びねらい

本研修では、多剤服用のリスクや薬の作用・副作用についての知識を学ぶ機会とする。特に高齢者がよく服用されている睡眠薬・抗炎症薬（痛み止め）・抗精神病薬について学ぶことでケアの一助とする。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

高齢者の多くは、抗炎症薬や抗精神病薬などを服用しており、その影響で意欲や興味関心の低下、もしくは本来の器質的な側面からの影響なのかを判断しづらい部分があった。また、多剤服用へのリスクや薬の飲み忘れや飲まない場合があった際に、対応方法が難しい状況であった。

2 実施による成果及び効果

薬の基本的な知識を学ぶことができた。特に、飲み合わせは薬同士の相性ばかりではなく、人の体質にも大きく影響を及ぼすことを知ることができた。また、医療従事者ではなくても薬の効用や副作用などは「添付文書」と「薬品名」で詳細な情報を確認することができようになることで、検索のスムーズさや間違えのない情報を得る機会となる。服薬の管理において、多くの入居者は複数の病院・薬局の利用があり、薬局を一つにまとめるメリット（併用禁忌を発見しやすい・薬を全て把握してもらえらる・顔なじみになり相談がしやすいなど）があり、施設・薬局とのシームレスな関係を得ることができのではないかと感じた。

3 今後の課題

現在、当法人では入居者それぞれで調剤薬局の利用が複数ある方も多く、上記で学ぶことができた薬局を一つにまとめるメリットが服薬管理の部分の意味でも大きいと考える。今後、検討していくこととして調剤薬局の統一化を視野に入れて、法人全体で取り組むことが課題と言える。（現在検討中である。）

また、今回勤務の都合上、研修を受講できなかった職員に対しては後日時間を設けて今回の研修を受けた内容を要約したハンドアウトを作成し配布。配布した上で研修内容の伝達を各部署で実施する。要約したハンドアウトを作成することで、受講者の復習にもなると考える。実践的に使用出来る介入方法や手段に対しては、Zoom等のリモートにて他部署間での意見交換や報告会を設けて、各施設で取り組みを共有することも検討中である。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

今回の研修会を踏まえて、薬に対しての考え方や服薬のタイミングなどを一定の理解を得ることはできた。入居者が薬を飲まなかった場合の対応方法がいくつか学ぶことができたので、各施設での①基準を設ける②対象者一人一人の最適な服用方法の洗い出しなどができればと考えている。コロナウイルス感染症も落ち着いてきたため、入居者とのコミュニケーションをとる機会も増えてきたので、来年度は「傾聴・会話」などのテーマに研修会を開催予定とする。

5 研修実施に係るまとめ、感想等

今回の研修を通して、薬の基本的な知識、薬剤師が考える薬の在り方、副作用についてなど大いに学ぶことがあった。コロナウイルス感染拡大後、初めてオフラインで研修を行ったが、グループワークを通じして、各職員が工夫していること（薬の飲ませ忘れを防ぐ方法やどのように工夫をして入居者の負担にならないように服薬して頂くかなど）を共有することができた。オンラインの良い面もあるが、オフラインであると、受講者同士の意見を交わす時間なども設けることができるため、来年度以降も感染対策（分散開催）をしながら研修を開催したいと思う。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	社会福祉法人栗沢福祉会
事業所名	特別養護老人ホームいちい荘
事業所の所在地	〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上 222 番地 6
サービス種類	介護老人福祉施設
事業所番号	0175700525

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ケ）から選択。（ケ）の場合は具体的な内容を記載。）
（ウ）認知症の理解
開催日時
10月11日、11月7日、12月5日、令和6年1月9日
開催場所
特別養護老人ホーム新しいいちい荘 多目的室
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
介護職員 57人
研修内容
認知症介護研修 1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） （1）講義 「ひもときシートの理解」 13：30～14：30 （2）グループワーク 「事例に沿ったひもときシートの活用」 2 講師・指導者の所属職氏名 （1）一般社団法人北海道介護福祉士会 認知症介護指導者 酒井 賢一 2）アンガーマネジメント （1）講義「アンガーマネジメント」 2 講師・指導者の所属職氏名 （1）日本アンガーマネジメント協会 ファシリテーター 服部克也

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
介護に携わる職員には、認知症を正しく理解し、認知症の方への適切な対応方法が求められます。しかしながら職員は日々の業務に追われ、認知症の知識や技術を向上させる機会を得ることが難しい状況にあり、ご利用者ご家族が望む「安心して過ごせる施設」となるためには専門的な認知症ケアの実践が欠かせない課題であると認識しています。

研修のテーマ及びねらい

認知症介護に携わる者が、認知症の人や家族の視点を重視しながら、利用者主体の介護を遂行する上で基本的な知識・技術とそれを実践する際の考え方を身につけ、チームアプローチに参画する一員として基礎的なサービス提供を行うことができるようにすることを目的としています。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

全介護職員が同内容の集合研修に参加でき、認知症の人を理解するための認知症ケア計画作成ツール及び感情のコントロールを学ぶ機会を得られました。

2 実施による成果及び効果

認知症ケア計画作成ツール「ひもときシート」システム概要、活用方法を講義にて学びました。事例を基にグループワーク（ワークショップ形式）にて「評価的理解」「分析的理解」「共感的理解」の項目に沿って、認知症の方本人の視点での課題及び解決方法を思考展開できました。これにより、援助者目線の対応から、本人視点の課題解決（対応方法）の糸口を見つける契機となったと評価しております。

アンガーマネジメントでは、「怒り」の感情と上手に付き合う為の方法として、「衝動のコントロール（6秒）」「思考のコントロール」「行動のコントロール」を学び、援助者自身の感情コントロールを理解したことより、利用者への対応方法の向上、広義では高齢者虐待の未然防止に繋がったと評価しております。

3 今後の課題

「ひもときシート」「アンガーマネジメント」を活用することにより、認知症利用者を理解でき、その人らしさを支援するケアを提供することを目標とし、認知症ケアのチームとしてのアプローチの定着及び醸成、個々の認知症の方への対応力を向上させたいと思っています。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

引き続き、その人らしさを支援するケアを目標に認知症ケアの実践に取り組みたいと考えています。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

期間中に施設内集団感染発生により、参加予定者が参加できない状況となり、変則勤務の為、職員の調整が厳しくなりましたので、研修に参加できなくても、内容を全職員が共有できるような方法を考える必要があったと思われました。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

同じ研修内容を全職員が受講したことにより、情報の共有ができ、チームとしての介護の方向性が統一できました。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	株式会社 H.T.L.
事業所名	デイサービスセンターひろば
事業所の所在地	〒041-0851
サービス種類	地域密着型通所介護
事業所番号	0171402977

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
（ク）介護従事者ができる薬剤管理（誤薬の予防、残薬の管理など）
開催日時
令和5年11月5日
開催場所
函館市亀田交流プラザ
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
医療従事者…薬剤師1名（プラス調剤薬局）、薬局代表取締役1名（プラス調剤薬局）、 医療事務員2名、看護師4名 介護従事者…介護支援専門員5名、介護福祉士15名、実務者研修終了者4名、 ヘルパー2級8名、初任者研修終了者1名、通所介護職員1名 セラピスト8名
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） 第1部 薬剤師による講話 患者さんの前で85歳であっても健康で仕事を続ける秘訣等 長年の経験での薬の変化 薬局にスマホで処方箋を送れたり、薬の相談ができるアプリの説明 第2部 プレイバックシアターの即興劇（劇団縁 joy） 事例を演じてもらう。 第3部 第2部で取り上げられた事例や疑問を薬剤師さんから返答して頂く。 参加者全員で解決へ導く方法を探る。質疑応答 事前アンケートの質問への答えを見て学ぶ。
2 講師・指導者の所属職氏名 講師 古村 修氏 薬剤師 プラス調剤薬局勤務（85歳現役勤務）函館市本町33-1 亀井 正啓氏 プラス調剤薬局代表取締役

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
<p>カンファレンスでよく上がる話が薬の事で、利用者様に拒否なく薬を飲んでもらう促し方、服薬カレンダー、薬箱等、工夫を重ねても尚、利用者様の薬の飲み忘れや誤薬による体調悪化等の状態が見られる。また、利用者様の服薬意識が低かったり、自己判断で減薬したりという場面が見られ、薬の専門家ではない私たちは、どのように説得すれば飲んでくれるか悩みながら携わってきました。職員同士での解決策には限界がある為、薬剤師さん等の専門家から良い事例やアドバイスをと願いここに企画致しました。</p> <p>介護者、自らも薬の大切さを伝えられ、利用者様の在宅生活が健康で豊かに過ごせるよう支援していくために学ばせていただく機会が欲しかった。</p>
研修のテーマ及びねらい
<p>医療従事者と介護従事者の仕事の理解 利用者様が確実に服薬できるケアの実施 介護従事者として服薬の大切さを認識し今後の仕事に生かす 誤薬の予防 医療従事者と介護従事者の連携の必要性を考える</p>
研修成果等
<p>1 実施前の課題解決の有無等</p> <p>事前アンケートで薬についての疑問 16 問の回答をしてもらった。 当日の事例演劇で 7 問の疑問が出たので参加者全員で解決法を導き確認した。 薬局からの事前アンケートの 5 問にも回答する。</p> <p>2 実施による成果及び効果</p> <p>医療従事者は薬を出してから生活に疑問を持ち、介護従事者は利用者さんにスムーズに服薬して欲しいと思う。自信を持って助言したい。と言う思いにお互いに寄り添う事ができたと思う。</p> <p>仕事の折に研修の事が頭に浮かび、参加者が求めた意見や回答が思い出され、知識や意識の向上につながったと感じている。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>カンファレンスで新たな薬に対する疑問が出た時にも気さくに質問できる関係を維持していくことが必要だと思います。</p> <p>経験だけでは解決できないからこそ求められている研修があるんだと思います。よりプロフェッショナルな人材育成と、共に利用者寄り添える人と出会える場をこれからも作っていかれたらと思っています。</p>

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

この研修結果をまとめ、回覧しました。

今後も講師（薬局）との関りを密に取り、更に広がりが出る事を企画したい。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

（苦労）講義をしてくれる医師を決定するまで（総合病院だと1年前に相談必要）

会場を決める際は半年前に予約がいっぱいになる為、早めに動く必要がある。

（工夫）事例を劇団に演じてもらったことで、臨場感が持てて、参加者の考えや悩みをすぐに察知でき解決する事ができました。

6 研修実施に係るまとめ、感想等

他事業所にも参加してもらおう事で研修機会となり、多職種とのつながりも出来ました。今後のケアにも多く想定される事例を取り上げたので、ずっと心に残る研修会になったのではないかと思います。また職員同士、力を合わせ研修会を準備したこと、無事に研修会を実施できたことで充実した時間を共有することが出来ました。頼もしい職員がいる事に感動していました。こんな時間が介護への情熱に繋がればと願います。機会を下さりありがとうございました。

介護関係職員医療連携支援事業実施報告書

1 基本事項

代表法人名	合同会社 you&me
事業所名	ヘルパーステーション one
事業所の所在地	〒047-0046
サービス種類	訪問介護
事業所番号	0172002693

2 研修内容

※複数回開催した場合は適宜、表又は行を追加してください。

研修テーマ（実施要綱（ア）～（ク）から選択。その他の場合は具体的な内容を記載。）
介護従事者ができる見取りケア
開催日時
令和5年7月14日
開催場所
小樽市港湾センター シーサイドイン 3階大会議室 小樽市港町4-4
参加者の人数、職種及び参加事業所種別
42名（訪問介護20名、デイサービス6名、ショートステイ5名、施設スタッフ11名）
研修内容
1 次第及び具体的な内容（講義・実習の別を含む。） 講義：『“看取り”ってなんだろう？』 ～明日から実践できる看取りケア～ 事例発表：事例提出者 山本大介 グループワーク 講師まとめ
2 講師・指導者の所属職氏名 医療法人社団 緑稜会 みどりクリニック新道東 日本緩和医療学会緩和医療認定医・指導医 今井貴史医師

3 研修実施に係る報告内容

研修実施の背景、課題
見取りケアに対する機会が少なかったり、また抵抗がある介護職員も多く、最後を自宅で迎えることができない方々がいる。
研修のテーマ及びねらい
近年、人生の最後を迎える場所が病院から自宅や介護施設となることが増えており、我々介護職が看取りの場に立ち会う機会も増えていきます。しかし職員の看取りに対する経験や意識はまだまだ低い状況にあり、「死」を避けられない状態にある方に対して、肉体や精神の苦痛を緩和させつつ人としての尊厳を残したまま支援していくために、この度の研修により看取りケアを実践できる人材を増やしていきたい。

研修成果等

1 実施前の課題解決の有無等

見取りにケアについての意識を高めることができた。

2 実施による成果及び効果

この度の研修会により看取りケアのなかで ACP が重要ということが理解できた。

3 今後の課題

実際の現場で利用者及び家族に寄り添ったケアについては、細かな部分を含めまだまだ研修会等を開催しスキルアップにつなげていきたい。

4 次年度以降、より医療連携を推進するために事業所で考えている取り組み

今回の研修を受けることができなかつたスタッフも多かつたので、周知について各事業所と連携していく。

5 研修を企画するに当たって苦労していること、工夫していること

皆さん業務を抱えているので研修参加者を集めることや講師の先生と話し合いを重ね、参加者さんに分かりやすく、次回も参加したい気持ちになるようなものにすることは苦労しました

6 研修実施に係るまとめ、感想等

各事業者からの感想の中で「見取りについて介護スタッフが主役になる」と講師の先生に言われたことは、意識改革になったと話されていた人が多かつたです。そういった意味では研修により看取りケアを実践できる人材を少しでも増やせたのではないかと一定の評価はしています。